

## 9 基礎と土台

基礎は、建物全体を支え、建物に作用する荷重を安全に地盤に伝え、地盤の沈下、変形に対して建物を安全に保つための役目があります。

ブロックや玉石の基礎は、地震のとき不同沈下したり、土台がずれたり、建物全体が回転したりするので好ましくありません。

1階外周壁と内部の主な間仕切り壁の下には、全体が連続した鉄筋コンクリート造の布基礎を設けてください。

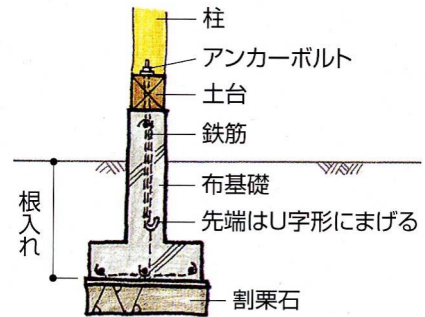
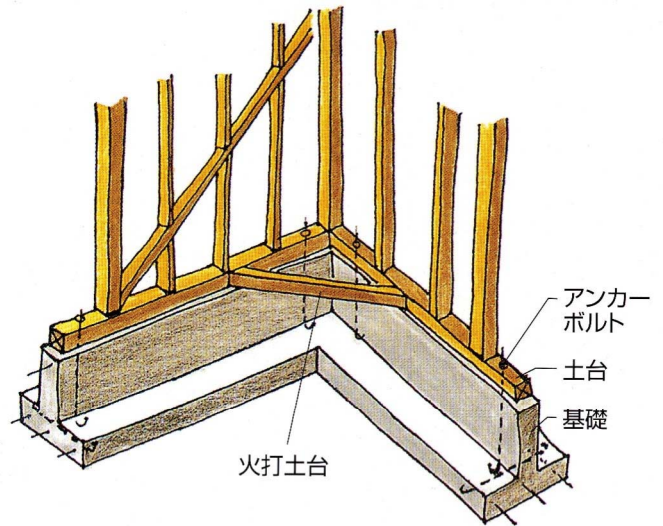
基礎の根入れは十分にとり、底面は沈下を防ぐために広くとりましょう。

また、べた基礎（底面全体を鉄筋コンクリート造で造った基礎）にすると布基礎に比べ更に有効です。

土台は、基礎の上であって、柱から伝えられる上部の荷重を基礎に分散して伝える部材です。

地震の揺れで、建物が浮き上がったり、基礎からずれて落ちるのを防ぐために、アンカーボルトで基礎にしっかり連結します。

特に、土台端部や、継ぎ手付近には必ず設けましょう。



## 10 防腐・防蟻

構造材の腐れや白アリの被害は耐久性を損ね、地震時に折れたり、落ちたりして、被害を大きくする恐れがあります。

木材は乾燥していると腐食しにくく、蟻害も少なくなりますので、床下、小屋裏、天井裏、壁内部の通気をよくし、漏水や雨漏りがないようにしましょう。

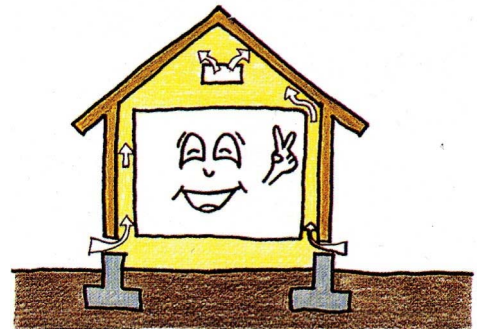
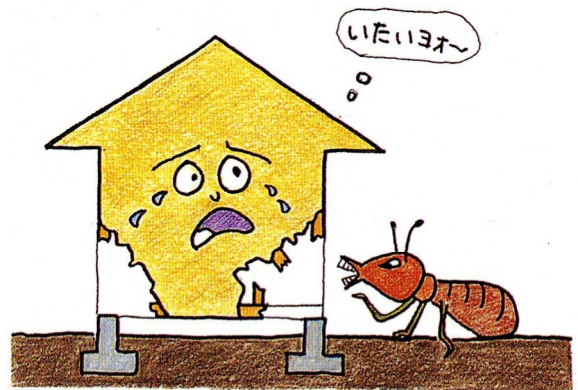
土台は、腐食や白アリの被害を受けやすいので、耐久性の高いヒノキやヒバなどの材料を使用し、防腐・防蟻処理しましょう。

土台以外でも、構造上主要な部材である柱、筋かい等で地盤面からの高さが1m以内の部分にも、防腐・防蟻処理を施しましょう。

日当たりや通風が悪く、風雨のあたりやすい場所は、腐りやすいので注意しましょう。

雨漏りや漏水がないようにし、雨樋等が破損したらなるべく早く修繕しましょう。

台所、浴室、便所などの水回りは、特に換気や防腐に注意しましょう。



床下部分には壁の長さ5m以内ごとに面積300cm<sup>2</sup>以上の換気口を設けます。

土台・床組は基礎のせいを高くして、地盤からの吸湿を防ぎます。小屋裏換気のため、有効な小屋裏換気口を設けます。